

日本語適応学級第4学年国語科学習指導案（取り出し指導）

平成29年6月6日（火曜）第3時限 アニモ2

指導者 伊藤 敦子

1 単元 4年生国語「一つの花」

2 本時の指導

(1) 目標（3/9 9時間完了）

- 登場人物の行動や様子に着目して、気持ちを読むことができる。 (読む)
- 友達の話をお聞き、自分の考えを話すことができる。 (話す・聞く)

(2) 指導の力点

本時に取り出し指導を行う児童は7名で、母国も日本語のレベルが同じではない。滞日年数が1年2か月の児童をはじめとして、日本を来訪して日本語の学習が途切れている児童なども、一緒に学習に取り組む。

「一つの花」は、日本の児童でも理解しにくい戦争中の物語である。そこで、ゆみ子たち家族が生きていた時代背景を知らせるために写真等を活用して理解を深めさせたい。また、この単元の教科書はリライトした教科書を使用する。その際、分かち書きをして音読しやすいように工夫して、少しでも音読への負荷を減らし、内容の理解に集中できるように準備したい。

この2場面では、何回も「一つだけ」という言葉がでてくる。特に何回も繰り返す父親の会話や行動から、このように言わざるを得ない父親の気持ちを考えさせたい。

アニモの子どもたちが自分と年齢の違う父親の立場にたって、気持ちを考えることは難しいと予想されるが、音読場面を取り入れそこから考えさせていきたい。叙述からずれた場合や考えたことが難しい場合はペア活動を取り入れて、お互いに聴き合い話し合うことで理解を深めたい。

(3) 指導過程

学 習 の 流 れ	教師の働き掛けと支援・留意点
1 本時の学習課題をつかむ。 (1) 本時の目当てを知る。 (2) <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">気持ちを考えよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時をふり返り、戦争中で食べ物がなかったことから常に空腹状態だったことを確認する。 ○ 目当てを板書する。 3
2 第2場面を読んで気持ちや様子を想像する。 (1) 教師の範読をお聴く。 (2) 一人一文ずつ音読して聴き合う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 分かりにくい言葉は、分かりやすい言葉に言い換えたり視覚的に理解させたりする。 ○ 友達が読んでいるところを、指でなぞりながら聴かせる。 5

<p>3 父親の気持ちや様子の分かるところについてペアで聴き合い話し合う。</p>	<p>○ 会話文は「 」がついていることを確認させる。</p> <p>○ 会話や行動に線を引かせて、そこから分かった父親の気持ちについて、ペアで話し合う。</p> <p>○ 「深いため息」という言葉に着目させ、どのようなときにため息がでるのか考えさせる。</p> <p>○ 父親のため息には、どんな思いがあるのか考えさせたい。</p> <p>○ 父親の会話文を読むことで、繰り返し出てくる「一つだけ」という言葉から「いったいどんな子に・・・」という、娘の将来を心配する父親の心情へもつなげていく。</p> <p>○ 考えが、停滞したり叙述からそれたりしていくときは、本文に戻して音読させる。</p>
<p>4 学習のまとめをする。</p> <p>(1) 板書を書き写して、ふり返りを書く。</p> <p>○ 書いた文章を音読して表記上のまちがいがいないか、既習漢字を使っているかを、確かめる。</p> <p>(2) 次時の予告を聞く。</p>	<p>○ ワークシートに板書を書き写し、ふり返りを書く。</p> <p>○ 書いた文章を音読させ、必ず自分で推敲させる。</p>

27

10